

## ライオン学校 2012 年度活動報告

### ・内容

#### ○万石浦ライオン学校支援

経過観察、集団あそび、家庭訪問、夏休みの宿題お手伝い、合宿、保護者訪問、支援ミーティング

### ・日時及び詳細

〈万石浦ライオン学校支援〉活動回数:13 回

- ・4月22日 大学生支援隊のみでの初のライオン学校支援。新学期からの様子の変化を伺いに行く。子どもたちからの聞き取りで、数名の子がいじめに悩んでいることが分かる。また、すぐには解決の難しい問題を抱える家庭もあったため、引き続き定期的に訪れ子どもたちと話をする機会を持ち、見守っていく方針を固める。
- ・5月26日 定期支援。活動を通して、ライオン学校の子どもたちの中での繋がりができ始めていることを確認できた。活動運営面では、他の支援団体とのかかわり方について話し合いを行なった。
- ・6月10日 定期支援。ゲストとして、昨年度ライオン学校の先生をしてくださっていた2名の先生も参加。いじめに悩んでいる子へアドバイスをしていただいた。
- ・7月6,7日 定期支援。大学生支援隊として始めて2日間の支援を行なった。
- ・7月21,22日 定期支援。8月に計画している伊豆旅行のための事前勉強会をした。
- ・7月23~29日 以前から特に支援が必要だと見てきた女の子のために、生活トレーニング合宿を行なった。1週間の合宿でその子の様子は大きく変化し、非常に有意義なものとなった。
- ・8月2~6日 ライオン学校伊豆学習旅行。昨年度からライオン学校に関わってきた先生たち、保護者の方々も含めて、修学旅行を行なった。今までは大人と一緒にやっていた「ふりかえり」を子どもひとりだけでできるようになった。
- ・8月24~26日 夏休みの宿題お手伝い支援。宿題は間に合わないほど残っている子もいたが、ほとんどの子どもたちの宿題を無事終えることができた。外遊びでは、子供だけで長縄をするなど、大人が介入せずとも、うまく遊ぶことができるようになった。
- ・9月16日 友だちとの付き合い方に対して悩みをかかえているライオン学校の男の子から校長先生へ相談の手紙が届いたので、校長先生とともにお話に行く。
- ・10月20,21日 定期支援。万石浦小学校の学芸会を見に行ったり、子供たちと地域のお祭りに行ったりした。外出中もライオン学校のルールをきちんと守れることができ、成長を感じた。ここ数回の支援で子供たちが安定してきたこともあり、今後の支援頻度を2ヶ月に1度に変更。
- ・11月16日 助成金申請が落選したことを受け、支援母体を地元万石浦に移す案が浮上。そのことについて保護者の方々に説明及び、了承を頂きに行った。
- ・12月22,23日 定期支援。学校でのいじめの問題も聞くことが少なくなってきた。しかし、依然として問題をかかえている子がおり、まだまだ支援が必要と判断。
- ・12月24~27日 以前から神奈川にあるライオン学校長のおうちに行きたがっていた2人の男の子のた

めに旅行を計画。本来のライオン学校の旅行ではないので交通費は自己負担する約束のもとで行なった。

**・場所:** 万石支えあい拠点センター、仮設万石浦集会所

**・人員:** 対象者:延べ 168 名、従事者人員:延べ 86 名  
対象者登録数 20 名、従事者登録数 21 名

### **・様子・成果・反省・課題**

2012 年 3 月に一旦お別れとなったライオン学校の継続的な見守りを目的として、同年 4 月より大学生メンバーを中心に改めて「ライオン学校」として活動を立ち上げた。当初から参加していた子ども達を中心に毎回約 20 名の子ども達と活動を行なっている。

2011 年 5 月に活動が始まった当時、子ども達に多く見られた「荒れ」は現在ではほとんどなくなっている。しかし、震災による環境の変化が生んだ子ども達(または保護者の方々)の困難は依然多く存在しており、外部からの支援や見守りが必要な状況である。そのことを踏まえた上で、ライオン学校ではただ一緒に遊ぶだけでなく、子ども達一人ひとりの家庭状況・学校での様子を考えた上での活動を行なってきた。2012 年の 7 月には、以前から特に支援が必要だと見てきた子のために合宿を行い、その子が少しでも身の回りのことを出来るように支援した。この子が抱えている大きな問題の根本的な克服は叶わなかったものの、一緒に生活することで支援者とその子の中で信頼が生まれ、表情が柔らかくなり、挨拶ができるようになるなどの成果が得られた。またこの子に限らず、早急に支援が必要な子がいた場合には、その対策について検討し適宜実行してきた。これによる成果とは一概には言えないが、子ども達は困難の中でも落ち着いた状況を保って成長できていると感じる。また、この安定した状況を保っていくためにも今後も継続的な支援が必要であると支援隊一同考えている。

反省としては、後半の活動頻度を 2 ヶ月に 1 度に減らしたことによって、現地での状況がつかみづらくなったことが挙げられる。頻度自体はそのままでもいいかもしれないが、定期的に子ども達と電話連絡を取り合うなど、常にあちらの状況を把握できるような態勢を整える必要がある。また、課題としては支援要員の確保が挙げられる。来年度より大学生メンバーも進学などでバラバラになってしまうので、継続的に支援に参加できる人員を確保していきたい。最後に活動資金の確保が大きな課題である。助成金申請が地元団体優先に承認されていることから、ライオン学校も来年度内に支援母体を地元万石浦に移す準備をしている。自由度の高い支援活動を今後も継続的に行なっていくためにも、積極的な資金確保に努めていきたい。